

発寒：旧三谷牧場牛舎



発寒8条13丁目にあった旧三谷牧場牛舎（H15頃）/区役所撮影

この建物に見覚えのある方も多いのではないのでしょうか。西区には、かつてレンガ造りのサイロ、緑色の屋根の牛舎、起伏のある草地——これぞ北海道という景色がありました。近隣の小学校に通っていた方は、写生会の題材として描いたことがあるのではないのでしょうか。

この三谷牧場のサイロと牛舎は、昭和3年（1928年）に建てられ、江別のレンガを使った寒地用二重式空間サイロ第1号として、当時話題になったと言います。札幌景観資産として指定されたこの牛舎とサイロは、その後改修されレストランとなりましたが、平成30年（2018年）に解体されることとなりました。



昭和48年3月の三谷牧場/斉藤氏提供

【記憶の中の原風景】

（以下、撮影者コメント抜粋）

かつてここに広大な三谷牧場があり、地域のシンボリックサイロ・牛舎・ポプラ並木があったが、今は都市化の波か、2018年にその役目を終え、面影もなく、懐かしい記憶の中に留めている。

三谷牧場は大正初期に三谷源太郎氏がこの発寒の土地が決して肥沃でないとし、土地の有効活用を農業と酪農の二刀流での経営を計り、その後一雄氏、誠一氏へと引き継がれ、この地の発展に貢献した。